

氏名	松下 誠	部署	健康開発学科	職名	教授
研究分野	臨床化学、病態検査学				
学位	博士(医学)				
学歴	1990年東京理科大学理学部化学科				
経歴	1981年昭和大学藤が丘病院中央検査部、1993年埼玉県立衛生短期大学講師、1994年スウェーデンウメオ大学臨床生化学教室研究員、1999年埼玉県立大学短期大学部助教授、2005年埼玉県立大学教授、				
所属学会(役職)	日本臨床検査学教育学会(理事)、日本臨床化学会(評議員)、日本電気泳動学会(評議員)、日本臨床検査自動化学会、日本臨床衛生検査技師会				

【2015年度実績】

1. 研究業績					
著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月	
(1) 著作					
1 臨床化学検査学	共著	医歯薬出版;P.443	浦山修、奥村伸生、戸塚実、松下誠、編著	2016.3	
2					
3					
(2) 論文					
1 脂肪食摂取後のアルカリ性ホスファターゼ活性の上昇は唾液中のABH型物質と相関する	共著	臨床病理;63(5);P.543-547	松下誠、大谷香菜、坂本裕衣、新井智子、行正信康、村本良三、菰田二一	2015.5	
2 電気泳動法を用いた血液型依存性高アルカリ性ホスファターゼ血症の確認	共著	電気泳動;59;P.25-28	松下誠、下垣里河、村本良三、菰田二一	2015.9	
3 ビウレット法は真の血清総蛋白値を反映していない — 蛋白質に特異性の高いニッケル-ビウレット法を基準とした場合 —	共著	日本臨床検査自動化学会誌;40(5);P.590-595	青柳絵里香、大森雅、加藤文音、小林恵穂、村本良三、松下誠	2015.11	
4 総活性と電気泳動法間の反応性の相違を補正するALPアイソザイム分析法の検討	共著	日本臨床検査学教育;8(1);P.89-90	長浦淳、金谷水樹、工藤思華、大野頑張、吉村梨菜、松下誠	2016.3	
(3) 学会発表					
1 ビウレット法/BCG法、及び電気泳動法によるA/G比はどちらが正しいのか — 両方法ともに正確なA/G比を反映していない —	共著	第10回日本臨床検査学教育学会学術大会、松本市	○金谷水樹、工藤思華、大野頑張、長浦淳、吉村梨菜、松下誠	2015.8	
2 総活性と電気泳動法間の反応性の相違を補正するALPアイソザイム分析法の検討	共著	第10回日本臨床検査学教育学会学術大会、松本市	○長浦淳、金谷水樹、工藤思華、大野頑張、吉村梨菜、松下誠	2015.8	
3 蛋白質に特異性の高いニッケル-ビウレット法を用いる血清総蛋白の初速度分析法の考案	共著	日本臨床検査自動化学会第47回大会、横浜市	○工藤思華、長浦淳、金谷水樹、大野頑張、吉村梨菜、青柳絵里香、永井謙一、松下誠	2015.11	
4 ALP活性測定法の変遷は血液型の影響を考慮したものか — 現在のJSCC法からIFCC法への変更を視野に入れた場合 —	共著	日本臨床検査自動化学会第47回大会、横浜市	○大野頑張、長浦淳、金谷水樹、工藤思華、吉村梨菜、松下誠	2015.11	
5 肝型・骨型ALP情報を併記する新たなALPアイソザイム検査法の考案	共著	日本臨床検査自動化学会第47回大会、横浜市	○吉村梨菜、長浦淳、金谷水樹、工藤思華、大野頑張、松下誠	2015.11	
6 これからの大学院研究のあり方 — 埼玉県立大学大学院臨床化学教室の取り組み —	単著	第44回埼玉県医学検査学会、さいたま市	○松下誠	2015.12	

(4) その他			
1	該当なし		
2. 競争的資金等の研究			
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	日本臨床化学会関東支部分科会プロジェクト	血清総蛋白測定の問題点の整理とその標準化に関する研究(研究分担者)	2015.9～2017.8
3. 教育業績			
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義			
1	臨床化学分析	2015.4～2015.9	私が編著として関わっている臨床化学検査学を教科書として実施した。
2	臨床化学検査学	2015.9～2016.3	私が編著として関わっている臨床化学検査学を教科書として実施した。
3			
(2) 演習			
1	臨床検査薬演習	2015.9～2016.3	本学オリジナルの演習テキストを作成して実施した。
2	健康福祉科学演習(生体情報評価学)	2015.9～2016.3	特別研究指導教員として大学院生に文献抄読会を実施した。
3			
(3) 実習			
1	臨床化学分析実習	2015.4～2015.9	本学オリジナルの実習テキストを作成して実施した。
2	臨床化学検査学実習	2015.9～2016.3	本学オリジナルの実習テキストを作成して実施した。
(4) 論文指導			
1	修士課程	2015.4～2016.3	指導教員として2名
(5) その他			
1	卒業研究	2015.4～2016.3	検査技術科学専攻4年次生5名を指導した。
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	該当なし		
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	日本臨床検査学教育協議会	副理事長	2013.4～
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
5. 学内運営(委員会委員)			
1	教育研究審議会委員		
2	健康開発学科学科長		
3			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		